

インドネシアはなぜ日本にとって重要なのか？

20年先を見て考える



2021年10月13日

1. インドネシアは日本の多数派形成の鍵となる国 (1)

【ポイント1】 これから20年程度先を見通すと、日本が国際社会で多数派を形成するためには、インドネシア（+インド）が日本に近い立ち位置を取ることが不可欠の要素。

- ~2030年頃；米国一強＋米中対立（双方の「幻想」）
- 2030～40年；「G3」（米中印）の現出
 - ① 中国のGDP \geq 米国のGDP
 - ② 中国の国防費 \geq 米国の国防費
 - ③ インドの人口 \geq 中国の人口 + インドのGDP \geq 日本

1. インドネシアは日本の多数派形成の鍵となる国 (2)

- その中でG7を作るとすれば、G3+日本、インドネシア、EU、ロシア
- ✓ インドの次に日本のGDPを抜くのはインドネシア (2040年代)
- ✓ インドネシア (+インド) は2040年代まで老齡化しない数少ない国



- 日本が「日米同盟を背景に持ち、中国と共存共栄する (= 「いてこまされない」) 」ためには、G7の中で、米+EUに加えインドネシア (+インド) が日本に近いことが必要
- ✓ インドネシアにとって対中関係は国内問題でもあり微妙+中国より日本を、より頼ることが出来るだけの大国

2. 日本のシーレーンの安定 = 東南アジア、特にインドネシアの安定



【ポイント2】

▶ 日本にとって死活的に重要なシーレーンに沿って位置する東南アジア諸国の安全と繁栄は、日本の安全と繁栄に不可欠。

▶ 特にインドネシアは、太平洋とインド洋の結節点にあり、多くのチョークポイントも存在

⇒ その動向は、日本の輸送の大動脈に直接的に影響

3. 東南アジア諸国の「踏み絵を踏まない分断」への対応

【ポイント3】東南アジアは米中（+インド）の競争の場となり、内部分裂が不可避。その中で、シーレーンに沿って日米の同志国の存在を確保することが必要。インドネシアはその最重要候補国。

「踏み絵を踏まない分断」の実態（定期的世論調査から如実）

- ✓ Big3 ; インドネシア、フィリピン、ベトナム⇒中国より日本を頼れる大国
- ✓ Middle3 ; タイ、マレーシア、ミャンマー⇒振り子のように揺れる中規模国
- ✓ Small3 ; ラオス、カンボジア、ブルネイ⇒中国を頼る以外選択肢が無い小国
- ✓ その他=シンガポール⇒政府≠国民意識（米国軍艦の母港⇔中国ビジネス）

4. 日本とインドネシアで出来ること (1)

**【ポイント4】日本とインドネシアは「戦略目標を共有」し「相互補完的」
=出来ることは沢山ある**

- 同じ目線で、「共に働き、共に発展する」関係。
- やるべきは「今でしょ！」=まだインドネシアは日本を必要としているが、今後は加速度的に、その逆になっていく。

【具体例】

① 経済成長の実現（一人当たりGDP 8,000ドル=倍増の実現）

- ✓ 人材育成 =若くて優秀な人材の取り込み
- ✓ 輸出増による成長 =東南アジアにおける輸出基地の多角化
- ✓ インフラ開発 =質の高いインフラというスタンダードの固定化

4. 日本とインドネシアで出来ること (2)

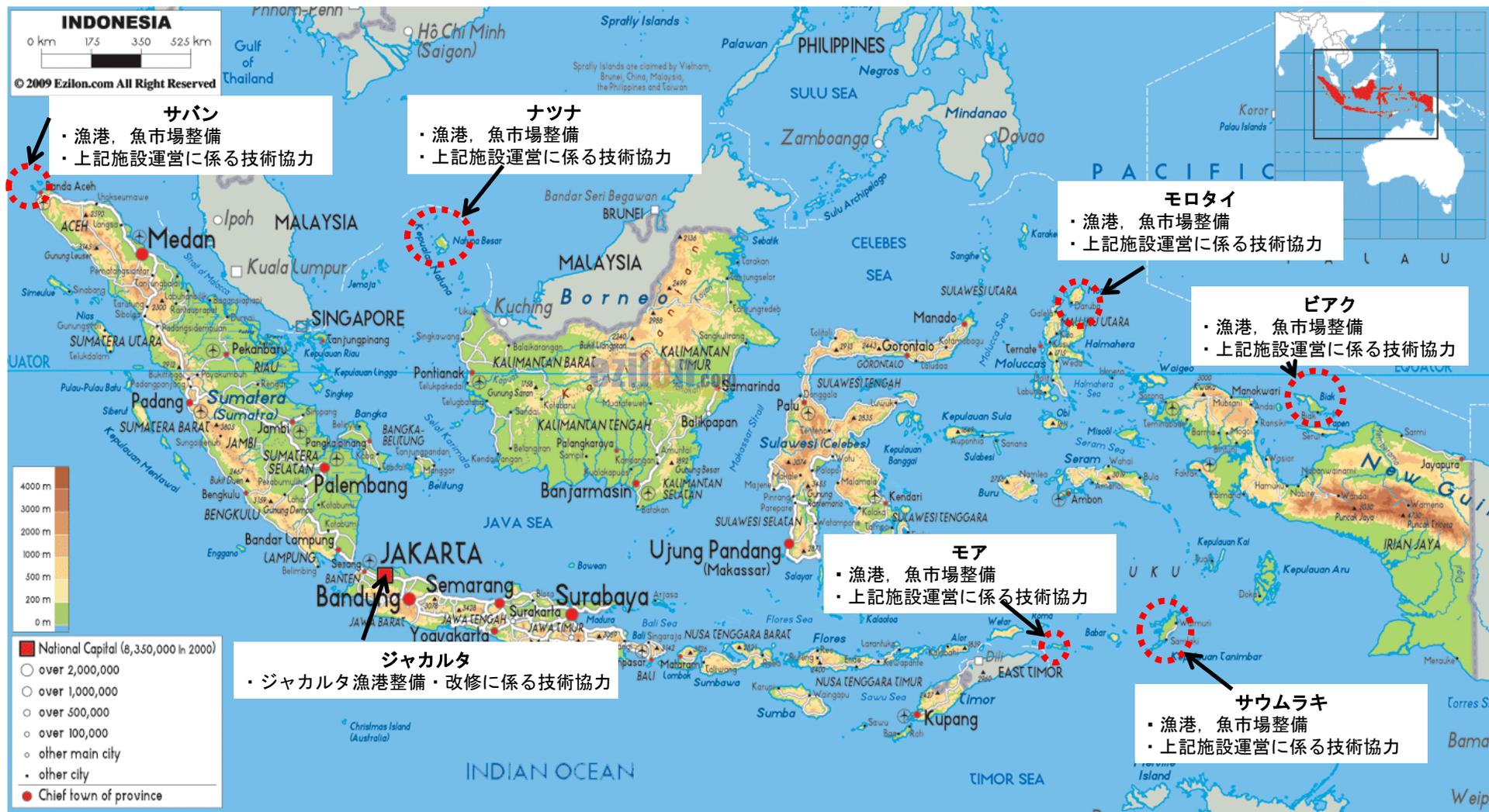
② 自由で安全な航行の実現

- ✓ 海上安全確保能力向上への協力 = BAKAMLA支援、漁業監視船供与
- ✓ 離島開発 (次頁) = 「日本にしか頼めない」
- ✓ 防衛装備品分野での協力 = 3月30日「2+2会合」+「協定」署名

③ 中国の「やり過ぎ」の機会を捉えた「同志国ネットワーク」の強化

- ✓ インドとインドネシアの連携支援 (ex. サバン島開発)
- ✓ 日米インドネシアの連携強化 (ex. ナツナ島開発)

【参考】 離島開発・水産振興に係る日尼協力



5. 一番大事なこと = 「第三世代」を耕す

【ポイント5】日本は東南アジアにおいて「特別な存在」ではなくなりつつある。

- ✓ 第一世代 = 戦後の日本による支援を共に実施
 - ✓ 第二世代 = 生まれた時から日本が特別な存在
 - ✓ 第三世代 = 「なぜ日本？」から始めなければならない世代
- ⇒ あらゆる機会を捉え、あらゆる手段を使って第三世代を早めに耕すことが必要

【短中期的機会】

2022年	インドネシアG20議長国	=	総理インドネシア訪問
2023年	インドネシアのASEAN議長国	=	総理、再度インドネシア訪問
	日ASEAN50周年	=	ASEAN強化の数少ない機会
	日インドネシア外交関係65周年		
2024年	大統領選挙	=	次世代への唾つけ

【参考】主な次世代リーダー候補の顔ぶれ

政党・中央政界



プアン・マハラニ
国会議長(闘争民主党)
47才(1973年9月6日生)
→メガワティ元大統領の娘



プラボウォ・スビヤント
国防大臣(グリンドラ党党首)
69才(1951年10月17日生)
→母はマナド生まれのキリスト教徒



サンディアガ・ウノ
観光・クリエイティブ経済大臣
(グリンドラ党諮問評議会副議長)
51才(1969年6月28日生)
→2019年選挙で副大統領候補
→父スラウェシ出身、母スンダ人



アイルランガ・ハルトルト
ゴルカル党党首
58才(1962年10月1日生)
→現経済担当調整大臣



アグス・ハリムルティ・ユドヨノ
42才(1978年8月10日生)
→ユドヨノ前大統領の長男(民主党)
→軍での最終階級は陸軍少佐



イェニー・ワヒッド
46才(1974年10月29日生)
→ワヒッド元大統領の次女
→所属政党なし(元PKB幹事長)



トリ・リスマハリニ(リスマ)
社会大臣
59才(1961年11月20日生)
→前スラバヤ市長
→PDIP所属



エリック・トヒル
国営企業大臣
50才(1970年5月30日生)
→ジョコ大統領選対本部長
→サンディアガ、ルトフィと同期
→母中華系



モハマド・ルトフィ
商業大臣
51才(1969年8月16日生)
→元駐日大使、前駐米大使
→元日インドネシア経済委員会
委員長



アグス・グミワン・カルタサスマタ
工業大臣
52才(1969年1月3日生)
→ゴルカル党副党首
→父はギナンジャール・インドネ
シア日本友好協会会長



ラフマツト・ゴーベル
国会副議長
58才(1962年9月3日生)
→父スラウェシ出身
→インドネシア日本友好協会
理事長
→ナスデム党所属
→中央大学卒

地方首長



アニス・バスウェダン
ジャカルタ州知事(1期目)
51才(1969年5月7日生)
→アラブ系
→所属政党なし
→閣僚経験(教育文化相)あり
→2022年に現任期終了



ガンジャール・プラノウオ
中部ジャワ州知事(2期目)
52才(1968年10月28日生)
→PDIP所属
→電子身分証明書汚職事件
への関与疑惑



リドワン・カミル
西ジャワ州知事(1期目)
48才(1971年10月4日生)
→スンダ人
→所属政党なし



コフィファ・インダル・プラーワンサ
東ジャワ州知事(1期目)
55才(1965年5月19日生)
→所属政党なし
→NU女性部長
→閣僚経験(社会相等)あり



ヌルディン・アブドゥラ(収監中)
南スラウェシ州知事(1期目)
57才(1963年2月7日生)
→南スラウェシ出身(ブギス人)
→所属政党なし(PDIP擁立)
→九州大学・大学院卒



ギブラン・ラカブミン・ラカ
中部ジャワ州ソロ市長(1期目)
33才(1987年10月1日生)
→ジョコ大統領長男
→PDIP所属



エミル・ダルダック
東ジャワ州副知事(1期目)
36才(1984年5月20日生)
→所属政党なし
→立命館アジア太平洋大
学博士号

※年齢制限のため、2024年正副大統領
選挙への立候補はできない見通し。

ビジネス界



ロサン・ルスラニ(次期駐米大使)
インドネシア商工会(KADIN)会頭
52才(1968年12月31日生)
→サンディアガ・ウノの高校の同
窓生・ビジネスパートナー
→ゴーベル氏を破り2015年に
KADIN会頭に就任

日本関係者